

み さら け
未更毛川上流 - 山ぎわの水田・ため池 -



休耕田と水田が点在する農地



山からの水が流れ込む休耕田



山ぎわの水田

選 定 理 由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 41種（面積約310ha）

自然の概要

山ぎわの斜面に湧水があり、所々で水田や水路に流れ込んで湿地を形成しています。このため、この良好な環境を利用するハッチョウトンボ、モウセンゴケが生息・生育しています。また、山ぎわの水田にはメダカが生息し、畦や土手の草地にはリンドウが生育しています。一帯のため池にはフトヒルムシロなどの水生植物が生育しています。

保全すべき主な環境

山田（山ぎわの水田および休耕田）ため池、草はら（リンドウの生育する土手や畦）

該当地の位置



里の生き物紹介 ハッチョウトンボ（トンボ目トンボ科）

体長は16～20mmで、世界で最も小さいトンボの一つです。オスは成熟すると赤くなり、メスは黄色と茶色のしま模様をしています。平地から山地にある湿地で、日当たりが良く、わずかな湧き水がある、草丈の低い湿地を好みます。本州から九州にかけて分布していますが、県内では見られる場所が限られています。

ハッチョウトンボが好む湿地は、放っておくと草が茂りすぎ、木が生えてしまうような不安定な環境ですが、このような場所が埋め立てによって無くなってしまいうことも多く、ハッチョウトンボの減少に拍車をかけています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



アオバズク
 県域絶滅危惧 類
 大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖



メダカ
 県域絶滅危惧 類
 池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



オオニガナ
 県域絶滅危惧 類
 山中の湿地、休耕田



ハッチョウトンボ
 要注目
 日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



リンドウ
 要注目
 山野の日当たりの良い草地に生育